

日本社会開発基金

成果報告

25周年記念版

脆弱なグループの経済活動を促進する

アルメニア: 社会的包摂と自立活動の促進プロジェクト

2020年-2023年 | 270万ドルのグラント

2018年のビロード革命後、アルメニアの新政府は、汚職との闘い、ガバナンスの改善、透明性の促進のため一連の改革に着手しました。不平等に取り組み、経済成長を促進するために最善の努力をしたにもかかわらず、コロナ危機と世界的な金融危機による複合的な影響によって、アルメニアの貧困層・脆弱層に深刻な影響が及びました。

2020年、[日本社会開発基金 \(JSDF\)](#) による資金提供と世界銀行の管理、[アルメニア社会福祉協会 \(AASW\)](#) の実施により開始された「[社会的包摂と自立活動の促進プロジェクト](#)」は、失業中の若者、女性世帯主、子どものいる家庭、障害者など、国内で最も脆弱な最貧困層の差し迫ったニーズに対応することを目的としています。

特に農村部では仕事が限られているため、プロジェクトでは人々を貧困から救い出す方法として自営業を推進しました。プロジェクトの支援により、畜産、養蜂、酪農、温室栽培、養鶏、飼料取引、保健関連サービス、パン屋、観光、研修・イベント企画、ファストフード・サービスなど、3,300人が農業部門をはじめとした分野で起業しました。プロジェクトはまた、1万1,000人に社会支援給付へのより良いアクセスを提供するとともに、起業家精神をはぐくむための重要な支援を提供しました。



アルメニア共和国のナレク・ムクルチヤン労働社会問題相は、2022年に開催されたプロジェクト・イベントで、「私たちの目標は、効果的な雇用プログラムを通じて、(プロジェクト参加者の)モチベーションを高め、励まし、参加者が社会的困難を自立的に克服して人生を変えるための確かな前提条件を作り出すことです」と述べました。

プロジェクトで雇用され、研修を受けたソーシャルワーカーは、将来の起業家が健全なビジネス慣行を構築し、収入を増やすための支援において重要な役割を果たしました。ソーシャルワーカーは指導を行い、起業家に自営業の機会を提供し、顧客との関与を促進しました。

プロジェクトの支援を受けて立ち上げられた300の事業のうち、プロジェクト終了時点で225の事業が継続しています。注目すべきは、これらの持続的なビジネスの40%が女性によって運営されていることであり、これはプロジェクトが女性の長期的な起業ベンチャーの促進に焦点を当てた結果です。

成功例の1つとして、ヴァガルシャパトで、ある女性実業家が、アルメニア一般慈善組合にイチゴを栽培するための温室を建設するための資金を申請しました。女性実業家の申請は認められ、受け取った資金は事業拡大に役立てられました。

プロジェクトでは、新たな活気あるベンチャー事業の創出に加え、選ばれた現地の起業家にサブグラントを配布した結果、世帯収入が25%増加しました。同プロジェクトはまた、6,000人(半数が女性)の社会支援給付やサービスへのアクセスを促進しました。

協調的なアプローチによって、プロジェクトは、脆弱層に本当に必要な収入源を提供するだけでなく、コミュニティ全体に影響を与えました。プロジェクト評価報告書によると、コミュニティへの再投資に成功した起業家の例が数多くあります。報告書の著者は、アララット地方のある受益者は、自社製品の一部を現地の児童保護センターに寄付した」という例を挙げています。また、「シラク地方で、ある受益者が見本市で集めた資金を別の受益者の医療に充てた」という例もあります。時には、シード基金がコミュニティを著しく成長させることもあります。